

2015年度第1四半期決算説明会（電話会議）資料

MS&AD

INSURANCE GROUP

2015年 8月7日（金）

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&ADホールディングス広報・IR部の塩野でございます。

本日は、お忙しい中、弊社の決算説明電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

2015年度第1四半期決算の概要

グループ連結	資料1-4
国内損害保険会社	資料5-9
国内生命保険会社	資料10-11
海外保険子会社	資料12

2015年度第1四半期決算データ

三井住友海上（単体）	資料13-15
あいおいニッセイ同和損保（単体）	資料16-18
三井住友海上+あいおいニッセイ同和損保（単体単純合計）	資料19-20

2015年度第1四半期決算の概要

グループ連結	資料 1-4
国内損害保険会社	資料 5-9
国内生命保険会社	資料 10-11
海外保険子会社	資料 12

- 正味収入保険料は、国内損害保険会社、海外保険子会社がともに順調に推移し、前年同期比+4.4%増収の7,659億円
- 生命保険料は、三井住友海上プライマリー生命において、円安による外貨建商品のターゲットヒットの解約が増加したことなどから、減収となったが、グロス収入保険料は三井住友海上あいおい生命、三井住友海上プライマリー生命ともに増収となった。

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)※	8,227	8,583	355	4.3%
正味収入保険料※	7,338	7,659	321	4.4%
三井住友海上	3,551	3,699	148	4.2%
あいおいニッセイ同和損保	2,898	2,970	72	2.5%
三井ダイレクト損保	86	91	5	6.1%
海外保険子会社	789	883	93	11.8%
生命保険料	2,454	2,099	△ 354	△ 14.5%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

<参考:保険料(グロス収入保険料)>

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増収率
三井住友海上あいおい生命	1,036	1,119	83	8.0%
三井住友海上プライマリー生命	2,267	2,726	458	20.2%

それでは、「2015年度第1四半期決算説明会 電話会議 資料」と題したスライドの1ページ目、「資料1」をご覧ください。

まず、グループのトップラインの状況について説明いたします。

ここでは損保の正味収入保険料について申し上げますと、国内損害保険会社が順調に増収したことに加え、海外保険子会社も寄与し、前年同期比で321億円、4.4%の増収の7,659億円となりました。

- グループ連結の四半期純利益は、前年同期比+325億円増益の973億円
- 三井住友海上は、保険引受利益および資産運用損益がともに増加したことから、+196億円の増益
- あいおいニッセイ同和損保は、昨年度の異常危険準備金戻入益や機能別再編に係る特別利益が無くなり、△196億円の減益
- 三井住友海上プライマリー生命は、豪ドル金利の上昇により責任準備金負担が軽減され、+248億円の増益

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期		
			前年同期比	増減率
経常利益	923	1,313	390	42.3%
三井住友海上	350	555	204	58.3%
あいおいニッセイ同和損保	447	281	△ 166	△ 37.1%
三井ダイレクト損保	11	7	△ 4	△ 38.0%
三井住友海上あいおい生命	41	46	4	9.8%
三井住友海上プライマリー生命	9	365	356	3,773.5%
海外保険子会社	103	127	24	23.4%
その他・連結調整等	△ 41	△ 69	△ 28	-
四半期純利益※	647	973	325	50.3%
三井住友海上	244	441	196	80.5%
あいおいニッセイ同和損保	394	197	△ 196	△ 49.8%
三井ダイレクト損保	8	5	△ 3	△ 39.2%
三井住友海上あいおい生命	14	17	2	19.9%
三井住友海上プライマリー生命	8	256	248	2,828.9%
海外保険子会社	82	99	17	21.5%
その他・連結調整等	△ 104	△ 45	59	-

※ 連結の四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を表す。子会社の四半期純利益は、出資持分ベース。

次に、「資料2」をご覧ください。

グループ連結の経常利益は、この表の1行目にあります通り、前年同期に比べ390億円増益の1,313億円となりました。

また、四半期純利益につきましては、325億円増益の973億円となりました。

四半期純利益の会社別内訳では、三井住友海上が増収効果やインカードロスの減少などで保険引受利益が改善したことに加え、資産運用損益も増加したことなどにより、196億円の増益となりました。

あいおいニッセイ同和損保においても、これらの増益要因はあったものの、前年の第1四半期においてプラス要因となった2014年2月の大雪に係る異常危険準備金戻し入れ益が相対的に大きかったことや、機能別再編に係る特別利益が無くなったことにより、196億円の減益となりました。

また、三井住友海上プライマリー生命は、オーストラリアドルの金利上昇の影響により、外貨建商品に係る責任準備金負担が軽減されたことを主因に、248億円の増益となりました。

・グループコア利益は、前年同期比 +314億円増益の 962億円

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	
			前年同期比
グループコア利益 ※1	647	962	314
国内損保事業	523	566	42
国内生保事業	22	273	251
海外事業	91	123	32
金融サービス事業/リスク関連事業	10	△ 1	△ 11
その他経営数値目標			
コンバインドレシオ（国内損保） ※2	99.7%	89.7%	△ 10.0pt
MSA生命EV増加額 ※3			
グループROE ※3			

※1 「グループコア利益」の定義は最終ページご参照

※2 「コンバインドレシオ(国内損保)」は、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクト損保の合計

※3 「MSA生命EV増加額」は半期ごと、「グループROE」は年度末に開示

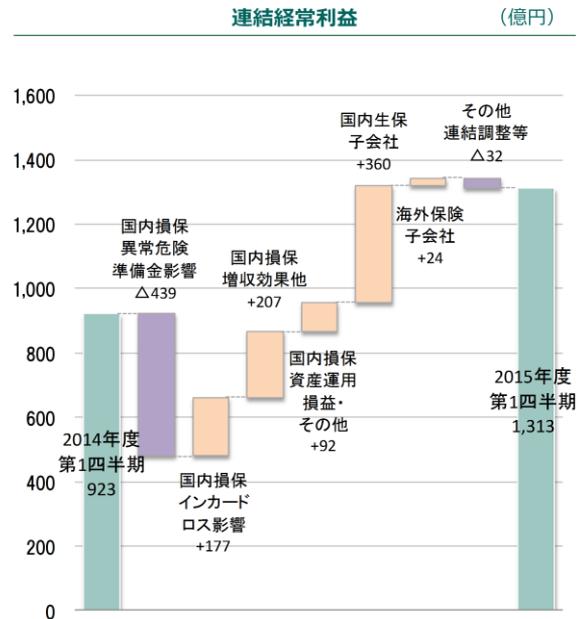
次に、「資料3」をご覧ください。

グループ・コア利益も、順調に推移し、314億円増益の、962億円となりました。

- ・国内損保において、異常危険準備金影響が △439億円の減益要因
- ・国内損保で、インカードロス影響が +177億円、増収効果他が +207億円、資産運用損益・その他が+92億円の増益要因
- ・国内生保は、+360億円の増益要因、海外保険子会社は+24億円の増益要因

	2014年度 第1四半期 (a)	2015年度 第1四半期 (b)	差額 (b)-(a)
連結経常利益	923	1,313	390
国内損保 ^{※1} 異常危険準備金影響	186	△ 252	△ 439
国内損保 ^{※1} インカードロス影響 (含む損害調査費) ^{※2}	△ 3,233	△ 3,055	177
国内損保 ^{※1} 増収効果他	3,460	3,667	207
国内損保 ^{※1} 資産運用損益・その他	384	477	92
国内生保子会社	51	411	360
海外保険子会社	103	127	24
その他連結調整等	△ 30	△ 62	△ 32

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計
 ※2 国内損保インカードロス影響(含む損害調査費)は、家計地震・自賠責を控除したベース



次に「資料4」をご覧ください。

連結経常利益について、前年同期からの増減について、その内訳を説明いたします。

右のグラフにあります通り、国内損害保険会社において、前年同期に計上した、2014年2月の大雪の保険金支払いに伴う戻し入れ益が無くなった異常危険準備金の影響が、439億円の減益要因となりましたが、自動車保険を中心にインカードロスが減少したことにより177億円、増収効果などのその他の保険引受利益が207億円の増益となっています。

これらに加え、国内損害保険会社において利息配当金や有価証券売却益の増加などにより、「資産運用・その他」が92億円の増益となり、異常危険準備金影響のマイナスを取り返しております。

さらに、国内生保子会社は、先ほど申し上げた、外貨金利上昇の影響があった三井住友海上プライマリー生命が増益となったことなどから、360億円の増益となりました。また、海外保険子会社も24億円の増益となっています。

資料5 国内損害保険会社（2015年度第1四半期）①主要2社の業績概要1 MS&AD

- ・ 正味収入保険料は、自動車保険および火災保険を中心に増収となり、2社合計で+3.4%増収の6,670億円
- ・ 保険引受利益は、異常危険準備金戻入れ益の反動減が大きかったものの、増収効果やインカードロスの減少などにより、2社合計で△54億円減少の359億円（異常危険準備金反映前保険引受利益では、前年同期比+384億円）

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和(単体)		<ご参考>2社合計(単純合計)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
正味収入保険料	3,699	148	2,970	72	6,670	221
正味収入保険料 増収率	4.2%	△ 1.1pt	2.5%	△ 0.5pt	3.4%	△ 0.8pt
正味支払保険金	(-) 1,893	△ 157	1,512	△ 300	3,406	△ 458
<インカードロス(含む損害調査費)>	(-) 2,090	△ 131	1,652	△ 52	3,743	△ 183
諸手数料及び集金費	(-) 659	17	581	23	1,241	41
営業費及び一般管理費(保険引受)	(-) 509	△ 24	460	△ 21	969	△ 46
異常危険準備金反映前保険引受利益	361	283	250	100	611	384
異常危険準備金戻入額	△ 148	△ 167	△ 104	△ 271	△ 252	△ 439
保険引受利益	213	116	145	△ 170	359	△ 54
諸比率						
正味損害率	57.0%	△ 6.9pt	55.8%	△ 11.3pt	56.5%	△ 8.8pt
正味事業費率	31.6%	△ 1.5pt	35.1%	△ 0.8pt	33.1%	△ 1.3pt
コンバインド・レシオ	88.6%	△ 8.4pt	90.9%	△ 12.1pt	89.6%	△ 10.1pt
<除く家計地震・自賠責>						
正味損害率	53.5%	△ 7.2pt	51.8%	△ 12.6pt	52.8%	△ 9.5pt
正味事業費率	33.4%	△ 1.5pt	36.9%	△ 0.8pt	34.9%	△ 1.3pt
コンバインド・レシオ	86.9%	△ 8.7pt	88.7%	△ 13.4pt	87.7%	△ 10.8pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

次に、国内損害保険会社の状況について、主要2社合計で説明いたします。
「資料5」をご覧ください。

まず、正味収入保険料は、2社ともに料率改定効果のあった自動車保険に加え、火災保険を中心に増収し、2社合計で前年同期比プラス221億円、3.4%の順調な増収となりました。

次に、保険引受利益は、異常危険準備金戻入額が439億円減少したことによる影響が大きく、前年同期比54億円減少の359億円となりましたが、異常危険準備金反映前の保険引受利益は、インカードロスが自動車保険を中心に2社合計で前年同期比183億円減少したことや、増収効果などにより、前年同期比384億円増益の611億円となりました。

なお、三井住友海上は、第1四半期の支払備金の見積もりに損害率法を用いていますが、今回より、自動車保険の支払備金の見積もりにおいて、より実勢の事故発生状況を反映するような改定を一部行っています。

資料6 国内損害保険会社（2015年度第1四半期）①主要2社の業績概要2 MS&AD

- ・資産運用・その他収支は、保有株式の増配や有価証券売却損益の増加により、2社合計で92億円増加
- ・特別損益は、昨年度の機能別再編に伴う移行対価が無くなったことから△122億円減少
- ・四半期純利益は、2社合計で前年同期水準の639億円
- ・政策株式は、2社合計で169億円を売却

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和(単体)		＜ご参考＞2社合計(単純合計)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
保険引受利益	213	116	145	△ 170	359	△ 54
ネット利息及び配当金収入	300	39	135	4	435	43
有価証券売却損益	74	38	21	9	96	48
有価証券評価損	(-) 30	△ 5	8	6	38	0
資産運用・その他収支	341	87	135	4	477	92
経常利益	555	204	281	△ 166	836	38
特別損益	△ 7	△ 14	△ 13	△ 108	△ 21	△ 122
税引前四半期純利益	547	190	268	△ 274	815	△ 84
四半期純利益	441	196	197	△ 196	639	0

次に、「資料6」をご覧ください。

資産運用については、ネット利息及び配当金収入が企業の増配等により増加したことや、好調な運用環境を反映して有価証券売却損益が増加したことなどから、資産運用とその他収支の合計は、前年同期比92億円増加し477億円となりました。

特別損益については、機能別再編に係る特別利益が無くなったことなどから、122億円の減少となっています。

以上の結果、国内損害保険主要2社合計の経常利益は、前年同期比38億円増益の836億円、四半期純利益は、前年同期と同水準の639億円となりました。

なお、政策株式につきましては、2社合計で、169億円を売却いたしました。

- ・自然災害に係るインカドrossは僅少
- ・自然災害に係る支払保険金は、2014年2月の大雪に係る多額の支払いがあった前年同期から△457億円減少

国内自然災害および2014年2月の大雪の影響

(億円)

	インカドross		支払保険金		支払備金積増額		支払備金残高
		前年同期比		前年同期比		前年同期比	
当年度発生国内自然災害	0	0	-	-	0	0	0
三井住友海上	0	0	-	-	0	0	0
あいおいニッセイ同和損保	-	-	-	-	-	-	-
2014年2月大雪による損害	1	△ 15	6	△ 457	△ 5	441	14
三井住友海上	0	△ 8	2	△ 233	△ 1	224	4
あいおいニッセイ同和損保	0	△ 6	3	△ 223	△ 3	217	9
合計	1	△ 14	6	△ 457	△ 4	442	14

次に、自然災害の影響を説明いたします。「資料7」をご覧ください。

当年度に発生した国内自然災害と、2014年2月に発生した大雪を合計した、自然災害に係るインカドrossは、一番下の行にありますように、ほぼゼロでした。

また、自然災害に係る支払保険金は、2014年2月の大雪に係る支払保険金があった前年同期から、457億円減少しました。

- ・異常危険準備金のネット増減額は、2社合計で前年同期比+439億円増加の252億円
- ・異常危険準備金の取崩額は、自然災害に係る保険金支払いがほとんど無く、自然災害を除いた損害率も改善したことから、2社合計で0億円

異常危険準備金

(億円)

		取崩額	繰入額	ネット増減額		残高
					前年同期比	
三井住友海上	火災	-	43	43	144	1,224
	海上	-	7	7	0	731
	傷害	-	12	12	1	635
	自動車	-	52	52	16	270
	その他	0	31	31	3	1,585
	合計	0	148	148	167	4,447
あいおいニッセイ 同和損保	火災	-	27	27	202	1,012
	海上	-	0	0	△0	137
	傷害	-	5	5	△0	617
	自動車	-	55	55	64	269
	その他	0	15	15	6	557
	合計	0	104	104	271	2,595
2社合計 (単純合計)	火災	-	70	70	347	2,237
	海上	-	8	8	△0	869
	傷害	-	17	17	1	1,252
	自動車	-	108	108	81	540
	その他	0	47	46	9	2,143
	合計	0	253	252	439	7,043

次に、「資料8」をご覧ください。異常危険準備金の状況を説明いたします。

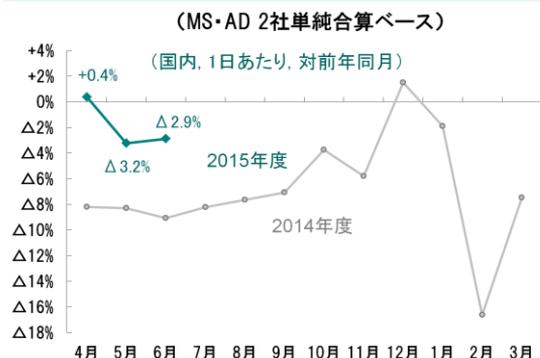
一番下の行にある、全種目合計の異常危険準備金の取崩額は、前のスライドの通り、自然災害に係る保険金支払いが大きく減少したことに加え、自然災害を除いた損害率も改善したことから、2社合計で0億円となりました。

また、全種目合計のネット増減額は、2社合計で252億円の繰入れとなり、取崩しだった前年同期から439億円増加しました。

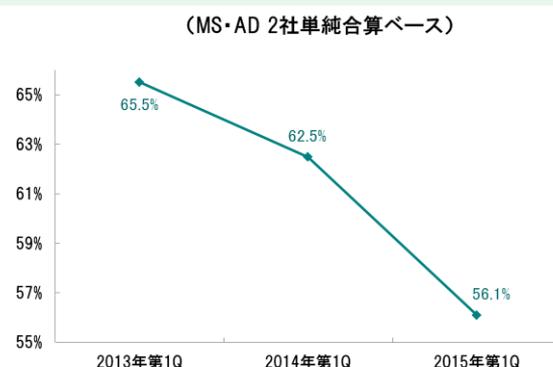
資料9 国内損害保険会社（2015年度第1四半期）④自動車保険の状況 MS&AD

- ・保険料が増収するなか、事故件数が引き続き低水準で推移したことから、EI損害率は前年同期比 6.4pt 改善の 56.1%
- ・保険金単価は、消費税率引き上げの影響が一巡したことから、前年度平均とほぼ同水準で推移

事故件数の推移（除く自然災害，2月大雪等の雪害を含む）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.1%	+4.0%	+4.0%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+0.0%	+0.7%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.5%	+3.1%	+2.6%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	△ 0.1%	△ 0.3%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-6月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2015年3月末までの1年間の保険金単価に対する、2015年6月末までの1年間の保険金単価の増減を表示

※ 車両保険(除く自然災害)の保険金単価には、2014年2月大雪等の雪害を含む ※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-6月

次に「資料9」をご覧ください。自動車保険の状況を説明いたします。

上段左の折れ線グラフは、2社合算の自動車保険の事故件数増減を示しております。

事故件数は、4月は前年同月比+0.4%となりましたが、5月、6月はマイナス3%前後の水準となりました。

次に、下段にある「保険料の増減要因」の表をご覧ください。

保険料単価についても、三井住友海上がプラス4.0%、あいおいニッセイ同和損保がプラス3.1%と2社ともに上昇しており、これまでの料率改定を含めた商品改定の効果が出ていると見ています。

2社合算のEI損害率は、上段右のグラフの通り順調に改善し、2015年度第1四半期は、56.1%と前年同期比で6.4ポイント改善しました。

一方、対物および車両に対する保険金単価は、このスライドの一番下にございますが、2社ともに昨年4月の消費税率引き上げ影響が一巡し、第1四半期は、昨年度平均とほぼ同水準で推移しておりますが、従来、修理費単価が上昇基調にあったことから、引き続き注視をしてまいりたいと考えております。

- ・新契約高は、収入保障保険の減少などにより、前年同期比 $\Delta 5.5\%$ 減少の 5,792億円
- ・新契約年換算保険料（第三分野）は、昨年度の新商品効果が一巡し、前年同期比 $\Delta 7.6\%$ 減少の 31億円
- ・四半期純利益は、+2億円 増益の 17億円

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2014年度 第1四半期		2015年度 第1四半期	
			前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	6,126	5,792	$\Delta 334$	$\Delta 5.5\%$
新契約年換算保険料	109	111	1	1.4%
うち 第三分野	34	31	$\Delta 2$	$\Delta 7.6\%$
保有契約高（個人合計）	（期首） 218,940	220,420	（期首比） 1,479	0.7%
保有契約年換算保険料	（期首） 3,559	3,605	（期首比） 46	1.3%
うち 第三分野	（期首） 705	724	（期首比） 19	2.8%
保険料（グロス収入保険料）	1,036	1,119	83	8.0%
経常利益	41	46	4	9.8%
四半期純利益	14	17	2	19.9%
基礎利益	44	38	$\Delta 5$	$\Delta 12.8\%$

次に三井住友海上あいおい生命の状況について説明します。
「資料10」をご覧ください。

新契約高は、収入保障保険の減少などにより、前年同期比5.5%の減少、第三分野の新契約年換算保険料は、新商品効果が一巡し、前年同期比7.6%の減収となりました。

一方、保有契約高は、期首比0.7%の増加、保有契約年換算保険料は、同じく1.3%の増加となり引き続き成長しております。

四半期純利益は、死亡保険金が増加したものの、生命保険料の増収や資産運用収支の増加により、前年同期比2億円増益の17億円となりました。

資料 1 1 国内生命保険会社（三井住友海上プライマリー生命）業績概要 MS&AD

- ・ 保険料は、定額終身保険、変額終身保険の販売が好調だったことから、+20.2% 増収の 2,726億円
- ・ 四半期純利益は、豪ドル金利の上昇により、責任準備金負担が軽減されたことなどから、+248億円 増益の 256億円

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2014年度		2015年度	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	2,187	2,606	418	19.1%
保有契約高（個人合計）	(期首) 44,210	45,240	(期首比) 1,029	2.3%
保険料(グロス収入保険料)	2,267	2,726	458	20.2%
経常利益	9	365	356	3,773.5%
四半期純利益	8	256	248	2,828.9%
基礎利益	△ 11	422	433	-

続いて三井住友海上プライマリー生命の業績を説明いたします。
「資料11」をご覧ください。

プライマリー生命のグロス収入保険料は、従来の外貨建定額商品に加え、5月に発売した外貨建変額終身保険の販売が好調だったことから、20.2%増収となりました。

保有契約高も、期首比2.3%増加の4兆5,240億円となっております。

また、四半期純利益は、オーストラリアドルの金利上昇を反映して外貨建定額商品の責任準備金の積立負担が軽減されたことなどから、248億円増益の256億円となっております。

- ・ 正味収入保険料は、全地域および再保険で増収し、+11.8%増収の 883億円（為替影響：+64億円）
- ・ 四半期純利益は、前年同期比 +17億円増益の 99億円（為替影響：+10億円）

海外保険子会社

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	789	883	93	11.8%
アジア	367	432	65	17.7%
欧州	236	240	3	1.4%
米州	105	125	19	18.9%
再保険	79	84	4	6.2%
四半期純利益	82	99	17	21.5%
アジア	37	52	15	41.2%
欧州	22	12	△ 10	△ 45.5%
米州	2	6	4	176.2%
再保険	20	28	8	40.6%

次に海外保険子会社の状況について説明いたします。「資料12」をご覧ください。

正味収入保険料は、全地域及び再保険で増収し、全体で11.8%増収の、883億円となりました。なお、ここには、為替影響として64億円を含んでおります。

四半期純利益も、全体として順調に推移し、前年同期比プラス17億円の99億円となりました。

2015年度第1四半期決算 データ

三井住友海上(単体)	資料13-15
あいおいニッセイ同和損保(単体)	資料16-18
三井住友海上+あいおいニッセイ同和損保(単体単純合計)	資料19-20

次ページ「資料13」から「資料20」まで、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保それぞれの単体、および2社単体の単純合算の業績を付けております。後ほどご覧ください。

以上で、私からのご説明を終わります。

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
正味収入保険料	3,551	3,699		148
正味収入保険料 増収率	5.3%	4.2%		△1.1pt
正味損害率	63.9%	57.0%		△6.9pt
正味事業費率	33.1%	31.6%		△1.5pt
コンパインド・レシオ	97.0%	88.6%		△8.4pt
インカードロス(含む損害調査費)	2,222	2,090		△131
保険引受利益	97	213		116
ネット利息及び配当金収入	261	300		39
有価証券売却損益	35	74		38
有価証券評価損	△36	△30		5
資産運用損益	260	351		90
経常利益	350	555		204
特別損益	6	△7		△14
四半期純利益	244	441		196
〈除く家計地震・自賠責〉				
正味収入保険料 増収率	4.0%	4.1%		0.1pt
正味損害率	60.7%	53.5%		△7.2pt
正味事業費率	34.9%	33.4%		△1.5pt
コンパインド・レシオ	95.6%	86.9%		△8.7pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

正味収入保険料

(億円)

	2014年度	2015年度	増収率
	第1四半期	第1四半期	
火災	461	479	4.0%
海上	161	180	11.7%
傷害	394	380	△3.7%
自動車	1,590	1,652	3.9%
自賠償	410	430	5.0%
その他	532	575	8.1%
合計	3,551	3,699	4.2%
除く家計地震・自賠償	3,139	3,267	4.1%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

正味損害率

	2014年度	2015年度	前年同期比
	第1四半期	第1四半期	
火災	96.9%	62.5%	△34.4pt
海上	47.1%	47.1%	0.0pt
傷害	56.1%	54.5%	△1.6pt
自動車	59.1%	54.9%	△4.2pt
自賠償	88.6%	83.6%	△5.0pt
その他	41.4%	43.0%	1.6pt
合計	63.9%	57.0%	△6.9pt
除く家計地震・自賠償	60.7%	53.5%	△7.2pt

インカードロスとE I 損害率（含む損害調査費）

（億円）

	2014年度 第1四半期					2015年度 第1四半期					前年同期比
	インカードロス (a)	E I 損害率	自然災害 影響 (b)	(a)-(b)	E I 損害率 (除く自然災害 影響)	インカード ロス (c)	E I 損害率	自然災害 影響 (d)	(c)-(d)	E I 損害率 (除く自然災害 影響)	
火災 (除く家計地震)	272	55.8%	7	265	54.2%	229	45.4%	△ 8	237	47.1%	△7.1pt
海上	86	56.3%	0	86	56.2%	99	55.4%	0	99	55.4%	△0.8pt
傷害	214	61.6%	0	214	61.4%	199	58.4%	△ 0	199	58.4%	△3.0pt
自動車	1,031	66.3%	△ 2	1,034	66.5%	918	57.3%	△ 0	918	57.3%	△9.2pt
その他	254	53.7%	△ 0	254	53.8%	283	55.6%	△ 0	284	55.6%	1.8pt
合計(A)	1,859	61.6%	5	1,854	61.4%	1,730	55.1%	△ 9	1,740	55.4%	△6.0pt
家計地震(B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自賠償(C)	363	—	—	363	—	360	—	—	360	—	—
合計(A)+(B)+(C)	2,222	—	5	2,217	—	2,090	—	△ 9	2,100	—	—

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※E I 損害率の分母となるアード（既経過）保険料は、未経過保険料（除く自然災害責任準備金）・保険料積立金等を調整して算出

※合計(A)は除く家計地震、自賠償

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害、大雪（2014年2月発生）およびタイ洪水に係るインカードロスの合計

資料 1 6 あいおいニッセイ同和損保（単体）2015年度第1四半期業績 ① MS&AD

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	前年同期比	
正味収入保険料	2,898	2,970		72
正味収入保険料 増収率	3.0%	2.5%		△0.5pt
正味損害率	67.1%	55.8%		△11.3pt
正味事業費率	35.9%	35.1%		△0.8pt
コンパインド・レシオ	103.0%	90.9%		△12.1pt
インカードロス(含む損害調査費)	1,704	1,652		△52
保険引受利益	316	145		△170
ネット利息及び配当金収入	130	135		4
有価証券売却損益	12	21		9
有価証券評価損	△2	△8		△6
資産運用損益	121	131		9
経常利益	447	281		△166
特別損益	94	△13		△108
四半期純利益	394	197		△196
〈除く家計地震・自賠責〉				
正味収入保険料 増収率	1.4%	2.4%		1.0pt
正味損害率	64.4%	51.8%		△12.6pt
正味事業費率	37.7%	36.9%		△0.8pt
コンパインド・レシオ	102.1%	88.7%		△13.4pt

資料 1 7 あいおいニッセイ同和損保（単体）2015年度第1四半期業績 ② MS&AD

正味収入保険料

(億円)

	2014年度	2015年度	増収率
	第1四半期	第1四半期	
火災	285	340	19.3%
海上	25	13	△45.3%
傷害	187	177	△4.9%
自動車	1,712	1,734	1.3%
自賠責	389	401	3.0%
その他	298	302	1.4%
合計	2,898	2,970	2.5%
除く家計地震・自賠責	2,507	2,568	2.4%

正味損害率

	2014年度	2015年度	前年同期比
	第1四半期	第1四半期	
火災	129.3%	49.3%	△80.0pt
海上	52.8%	64.0%	11.2pt
傷害	46.6%	47.8%	1.2pt
自動車	58.5%	53.8%	△4.7pt
自賠責	84.9%	81.6%	△3.3pt
その他	48.1%	45.2%	△2.9pt
合計	67.1%	55.8%	△11.3pt
除く家計地震・自賠責	64.4%	51.8%	△12.6pt

資料 18 あいおいニッセイ同和損保（単体）2015年度第1四半期業績 ③ MS&AD

インカードロスとE I 損害率（含む損害調査費）

（億円）

	2014年度 第1四半期					2015年度 第1四半期					前年同期比
	インカードロス (a)	E I 損害率	自然災害 影響 (b)	(a)-(b)	E I 損害率 (除く自然災害 影響)	インカード ロス (c)	E I 損害率	自然災害 影響 (d)	(c)-(d)	E I 損害率 (除く自然災害 影響)	
火災 (除く家計地震)	169	46.9%	4	164	45.7%	162	42.4%	1	160	42.1%	△3.6pt
海上	17	57.1%	—	17	57.1%	10	78.5%	—	10	78.5%	21.4pt
傷害	82	49.0%	0	82	48.9%	82	48.7%	0	82	48.7%	△0.2pt
自動車	974	58.9%	3	971	58.7%	921	54.9%	△0	921	54.9%	△3.8pt
その他	129	49.7%	△1	131	50.3%	148	58.4%	0	148	58.3%	8.0pt
合計(A)	1,373	55.5%	6	1,367	55.2%	1,324	53.0%	0	1,324	53.0%	△2.2pt
家計地震(B)	—		—	—		—		—	—		
自賠償(C)	330		—	330		327		—	327		
合計(A)+(B)+(C)	1,704		6	1,697		1,652		0	1,651		

※インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※E I 損害率の分母となるアード（既経過）保険料は、未経過保険料、保険料積立金等を調整して算出

※合計(A)は除く家計地震、自賠償

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害、大雪（2014年2月発生）およびタイ洪水に係るインカードロスの合計

資料 1 9 三井住友海上+あいおいニッセイ同和損保（単体単純合算）

MS&AD

(億円)

	2014年度 第1四半期	2015年度 第1四半期	
			前年同期比
正味収入保険料	6,449	6,670	221
正味保険料 増収率	4.2%	3.4%	△0.8pt
正味損害率	65.3%	56.5%	△8.8pt
正味事業費率	34.4%	33.1%	△1.3pt
コンバインド・レシオ	99.7%	89.6%	△10.1pt
インカードロス(含む損害調査費)	3,927	3,743	△183
保険引受利益	413	359	△54
ネット利息及び配当金収入	391	435	43
有価証券売却損益	47	96	48
有価証券評価損	△38	△38	0
資産運用損益	382	482	100
経常利益	798	836	38
特別損益	101	△21	△122
四半期純利益	638	639	0
〈除く家計地震・自賠責〉			
正味保険料 増収率	2.8%	3.3%	0.5pt
正味損害率	62.3%	52.8%	△9.5pt
正味事業費率	36.2%	34.9%	△1.3pt
コンバインド・レシオ	98.5%	87.7%	△10.8pt

正味収入保険料

(億円)

	2014年度	2015年度	
	第1四半期	第1四半期	増収率
火災	747	820	9.8%
海上	187	194	3.9%
傷害	581	558	△4.1%
自動車	3,302	3,386	2.6%
自賠償	799	831	4.0%
その他	831	878	5.7%
合計	6,449	6,670	3.4%
除く家計地震・自賠償	5,647	5,835	3.3%

正味損害率

	2014年度	2015年度	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
火災	109.3%	57.0%	△52.3pt
海上	47.9%	48.3%	0.4pt
傷害	53.1%	52.4%	△0.7pt
自動車	58.8%	54.3%	△4.5pt
自賠償	86.8%	82.6%	△4.2pt
その他	43.8%	43.8%	0.0pt
合計	65.3%	56.5%	△8.8pt
除く家計地震・自賠償	62.3%	52.8%	△9.5pt

インカドロス

(億円)

	2014年度	2015年度	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
インカドロス(含む損害調査費) ^{※1}	3,927	3,743	△183
自然災害 ^{※2}	11	△8	△20
自然災害以外	3,915	3,751	△163

※1 インカドロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※2 「自然災害」は、当年度発生国内自然災害、大雪(2014年2月発生)およびタイ洪水をいう。

「グループコア利益」の定義

グループコア利益 = 連結当期利益 - 株式資本損益（売却損益等） - クレジットデリバティブ評価損益 - その他特殊要因
+ 非連結グループ会社持分利益

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS & ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

e-mail: ms_ad_ir@ms-ad-hd.com

URL: <http://www.ms-ad-hd.com>